

令和4年度

石川県学校図書館研究大会

《野々市・白山大会》

大会主題

AI 時代における情報活用能力を育成する学校図書館

期 日

全体会・分科会

【オンライン】

令和4年10月21日(金)

授業公開・研究発表

【オンデマンド】

令和4年10月18日(火)～21日(金)



白山市の花
あさがお

野々市市の花
椿



この椿の写真は、以下の著作物を改変して利用しています。

ツバキ「野々市」、野々市市、CC BY 4.0

主催●石川県学校図書館協議会

共催●野々市市学校図書館協議会 白山市学校図書館協議会

後援●石川県教育委員会 野々市市教育委員会 白山市教育委員会

ごあいさつ

石川県学校図書館協議会
会 長 小 幡 喜 宏

なかなか収束の気配を見せないコロナ禍のもと、皆さまには厳しい教育環境の中で学校図書館の運営にご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

この度令和4年度石川県学校図書館研究大会（野々市・白山大会）を「AI時代における情報活用能力を育成する学校図書館」という大会主題のもと開催させていただくことができました。感染症対策のためオンライン・オンデマンド形式をメインに、HP掲載による研究発表、一部集合型のハイブリッド形式も加えて計画いたしました。大会を通じて知見が広がり、学校間で工夫や試みが共有されることで、新たなアイデアが生まれる機会となることを期待しております。

さて、7月に新しい石川県立図書館が開館し、その記念式典に出席いたしました。皆さまもご存じのように「百万石ビブリオバウム」という愛称で呼ばれており、館内を案内していただいて、幾重にも本棚が並ぶその様子から「年輪」を意味する「バウム」のネーミングに納得した次第です。後日、あらためて訪問した際には、ウインドーショッピングするように配架されている本を巡り、何種類もの個性的な椅子に目が止まりました。お気に入りの椅子を見つけて読書する方々、自習室で学習に励む学生たち、遊びながら本に触れる子どもたちなどがある図書館には、知とくつろぎの静の空間と発信する動の空間が共存しているようでした。新しいコンセプトを持った図書館の誕生が、大人だけではなく子どもたちにも本への関心を大いに高めることに繋がるでしょう。

最後となりましたが、本大会の開催にあたり、ご後援をいただきました石川県教育委員会、野々市市教育委員会、白山市教育委員会、共催をいただきました野々市市学校図書館協議会、白山市学校図書館協議会、大会運営に当たられました役員の皆さまや運営にご協力いただきました会員の皆さま方に厚く御礼申し上げます。皆さまの熱心な取り組みの成果が、今後の各学校における図書館活動の一層の充実、発展に寄与されることを心から祈念し開会の挨拶といたします。

祝 辞

野々市市教育委員会
教育長 大久保 邦彦

令和４年度石川県学校図書館研究大会が、「ＡＩ時代における情報活用能力を育成する学校図書館」をテーマに、県内各地より学校図書館に関わる多数の先生、司書の皆様方を迎え、ここ野々市市で開催されますことを心よりお祝いし、市をあげて歓迎いたします。

今回の開催にあたっては、感染対策の例に漏れず、オンデマンドでの授業公開やオンラインによる分科会の開催など、様々な制限がなされてはおりますが、大会主題にもあります「A I 時代」そして「S o c i e t y 5 . 0」の到来を見越し、進展する I C T を有効活用した関係者の皆様のご努力の姿であると捉えております。学校図書館研究における情報発信の新たな一歩となり、現地のみでの開催よりも参加がしやすくなることから、より多くの方に示唆を与えられる機会となりうると期待しております。

技術の進展は日進月歩であり、子どもの学びや先生方を支援する様々な製品が開発されております。それゆえ、不易と流行の言葉どおり、学校における先端技術の活用場面や頻度等に関しては、子どもの発達段階を十分考慮することが必要であることから、読書とICTの「ベストミックス」を図っていくことが求められております。

本市でも、令和2年3月に策定した、「第三次野々市市子ども読書活動推進計画」のもと、令和6年度までの5か年計画として、(1)発達段階に応じた家庭、地域、学校、社会全体における取組の推進、(2)子どもの本を利用できる市内の施設の環境の整備充実、(3)子どもの読書活動に関する計画、の3つの基本施策を進めているところですが、これらの取組は、一人一人の子どもに届き、学校に届き、子どもの姿で表現化・行動化がされることによって初めて、その施策が行き届いていると捉えられるのではないかと考えております。

GIGAスクール構想の推進のもと、1人1台端末が子どもたち、そして授業をされる先生方に行き渡った学校現場においては、ICTの活用を読書活動にどう結びつけていくのか、紙と電子書籍それぞれの強みを活かした読書活動をどのように考えるか、という新たな課題が浮かび上がっているところです。しかしながら、「紙かデジタルか」の二者択一ではなく、感想を友達や先生に伝えるアウトプットの学びを行う際に1人1台端末を活用するといった、新しい読書活動の在り方そのものを研究していくことが大切であり、この大会が、先生方ならびに司書の皆様にとって、貴重な学びを得る機会となり、本市の教育活動のみならず、石川県学校図書館協議会の発展につながりますことを期待しております。

結びになりますが、本大会の開催にご尽力くださいました関係者の皆様方に敬意と感謝を申し上げますとともに、ご参会の皆様の今後のご健勝とご活躍をご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

【日程】 令和4年10月21日（金）

13:00 13:30

15:30 15:40

16:40

入室 待機	全体会 開会式・記念講演	退室 入室	小中高 分科会
----------	-----------------	----------	---------

【全体会】

開会式・記念講演

◇ 会長挨拶 石川県学校図書館協議会 会長 小幡 喜宏

◇ 来賓祝辞 野々市市教育委員会 教育長 大久保 邦彦

◇ 記念講演

演題 「A I 時代における情報活用能力を育成する学校図書館」

講師 東京学芸大学教育学部 教授 高橋 純 氏

教育工学、教育方法学、教育の情報化に関する研究に従事

中央教育審議会臨時委員（初等中等教育分科会）

文部科学省「教育の情報化に関する手引」作成検討会委員（2019年）

「教育データの利活用に関する有識者会議」委員（2020年～）など

【授業公開】（オンデマンド期間限定公開） 10月18日（火）～10月21日（金）

学級	授業者	教科	「单元名」・（教材名）
1年2組	伊藤 大悟	国語	友だちは知っているかな？うみの生き物図鑑を作ろう （教材名）「うみのかくれんぼ」
2年3組	木坂 伸子	生活	みんなでつかうまちのしせつ～もっと知りたい！みんなのカ レード～
3年3組	田原 明	国語	食べ物へんしん説明文を書いておうちの人に説明しよう （教材名）「食べ物のひみつを教えます」
4年1組	伊藤 優子	社会	地震からくらしを守る
5年5組	岩泉 季生	社会	水産業のさかんな地域
6年3組	中川 輝陽	国語	筆者の論の進め方や表現の工夫について、分かったことや考え たことをまとめよう（教材名）『鳥獣戯画』を読む

※ 記念講演・研究発表・紀要・指導案等の全ての資料は本研究大会HPよりダウンロード
できます。

HPアドレス: <http://www.i-toshokan.net/>

公開期日: 令和4年10月18日（火）～10月31日（月）

【分科会】（オンライン）令和4年10月21日（金）

分科会名	分科会内容	担当	氏 名	学校名	ブレイクアウトルーム	
テ ー マ					運営委員	
第1分科会	小学校学習情報指導	発表者	梅木あゆみ	能登町立小木小学校 教諭	1 宮腰 拓 (館野小教諭) 安藤 恵美子 (御園小司書)	
豊かな学びのある 図書館をめざして ～学習情報指導を通して～		助言者	作田 律子	能登町立鶴川小学校 教頭		
		司会者	大久保奈々絵	能登町立宇出津小学校 教諭		
		記録者	下田 栞	能登町立松波小学校 教諭		
第2分科会	中学校学習情報指導	発表者	手崎 萌由	輪島市立東陽中学校 教諭	2 龍田 美樹 (野々市小教諭) 山本 佳代子 (野々市中教諭)	
生徒の学びを支える学校図書館		助言者	滝井 篤子	輪島市立鶴巣小学校 校長		
		司会者	岩坂こず恵	輪島市立門前中学校 教諭		
		記録者	木村 伊吹	輪島市立輪島中学校 教諭		
第3分科会	高等学校学習情報指導	発表者	二木 和代	県立大聖寺実業高等学校 司書	3 福田 宜史 (金沢錦丘高教諭) 中盛 邦昭 (金沢伏見高教諭)	
探究授業ブックリスト	橋本 尚子		県立大聖寺高等学校 司書			
	吉本 寿記		県立金沢伏見高等学校 司書			
	釜谷 鮎美		金沢学院大学附属高等学校 司書			
	助言者		北島 雅恵	県立野々市明倫高等学校 教頭		
	司会者		渡辺 靖	県立野々市明倫高等学校 教諭		
	記録者		白山 智佳	金沢大学附属高等学校 教諭		
第4分科会	小学校読書指導	発表者	北本 希美	能美市立湯野小学校 教諭	4 高城 真奈美 (菅原小司書) 小西 真由美 (富陽小教諭)	
主体的に読書する子をめざして		助言者	園下 恵子	小松市立矢田野小学校 校長		
		司会者	平野 則恵	小松市立串小学校 教諭		
		記録者	秋山 恵子	能美市立寺井小学校 教諭		
第5分科会	中学校読書指導	発表者	戸加里美香子	能美市立辰口中学校 教諭	5 石本 典子 (野々市小司書) 米岡 雅代 (布水中教諭)	
質の高い読書をめざして		助言者	廣田 恵子	小松市立松東みどり学園 校長		
		司会者	宮本ひろみ	小松市立安宅中学校 教諭		
		記録者	山際 華代	能美市立根上中学校 教諭		
第6分科会	高等学校読書指導	発表者	栢田 真里	県立七尾高等学校 教諭	6 中農 恵子 (津幡高教諭) 島崎 徹 (金沢桜丘高教諭)	
南能登地区の読書指導	木全 理恵		県立鹿西高等学校 教諭			
	助言者		中町 玲子	県立金沢西高等学校 教頭		
	司会者		米田 雅人	県立金沢向陽高等学校 教諭		
	記録者		黒崎 弘司	金沢市立工業高等学校 教諭		
第7分科会	小学校図書館運営	発表者	新谷 真美	かほく市立外日角小学校 教諭	7 福田 はるか (館野小司書) 二上 明美 (菅原小教諭)	
児童が読書を好きになる図書館 づくり		助言者	喜多 由紀	金沢学院大学附属中学校 教諭		
		司会者	出倉 祐望	かほく市立金津小学校 教諭		
		記録者	小瀧 由佳	かほく市立宇ノ気小学校 教諭		
第8分科会	中学校図書館運営	発表者	畑山 裕紀	かほく市立河北台中学校 教諭	8 榎本 利香 (富陽小司書) 穴太 寛子 (野々市中司書)	
自ら学ぶ力を育てる学校図書館 ～司書との協働を通して～			茶谷明日香	津幡町立津幡中学校 教諭		
			助言者	永井 隆和		津幡町立津幡南中学校 校長
			司会者	近藤 昌也		内灘町立内灘中学校 教諭
		記録者	瀧本アンナ	かほく市立高松中学校 教諭		
第9分科会	高等学校図書館運営	発表者	石村萌乃果	小松市立高等学校 教諭	9 中嶋 茂樹 (小松高教諭) 中川 幸恵 (小松商業高教諭)	
図書館の外で発信する本の魅力 ～新規層に 足を運んでもらうために～		助言者	新谷 喜之	県立金沢辰巳丘高等学校 教頭		
		司会者	米岡 幹夫	小松大谷高等学校 教諭		
		記録者	下田 智恵	県立寺井高等学校 教諭		

1 はじめに

鳳珠郡には12校の小中学校がある。鳳珠郡学校教育研究会学校図書部会では、「豊かな学びのある学校図書館をめざして」をテーマに研究に取り組んでいる。各学校での実践交流しながら、児童の情報の収集・選択・活用能力の育成をめざし、次のような学習情報指導の実践を重ねてきた。

2 実践の概要

(1) 授業のねらいに沿った図書館資料の整備

国語科では、言語活動に使用する並行読書の図書の整備を行った。授業のねらいに沿った図書館資料を、図書館内や教室にてコーナーを設置し並べた。



学級活動も同様に、歯の衛生週間に全学年が歯に関する学習をした時には、歯に関する図書を図書館に並べた。

また、学期に一度以上、図書館資料を使った授業を計画し、表にまとめ、図書館指導員と共有した。図書館指導員が来校する曜日に合わせて授業を行い、図書検索等のサポートを受けた。

学年	教科「単元名または教材名」	使用した図書館資料
1年	国語「くちばし」	動物図鑑
2年	生活「みんな生きている」	生き物に関する本
3年	国語「仕事のくふう、見つけたよ」	仕事に関する本
4年	国語「事実に基づいて書かれた本を読もう」	ノンフィクション
5年	社会「米作りのさかなな地域」	農業に関する本
6年	国語「わたしたちにできること」	環境問題に関する本

(2) 児童の主体的な学習活動の支援

国語科では、教材文で学んだことを活かして学校図書館の中から自分が選んだ本について紹介する言語活動を行った。1年「くちばし」では「一番すごい!」と思ったくちばしを友達に薦める」活動、4年「一つの花」では「平和を願う本を3年生に紹介



する」活動、4年「ランドセルは海をこえて」では「ノンフィクションを帯で全校に紹介する」活動を行った。

(3) 情報の探し方・資料の使い方指導

年度初めに、図書館指導員が図書館の利用の仕方についてオリエンテーションを行った。

また、3年国語「図書館たんていだん」では、図書館指導員から本のつくり（表紙、背）や9分類について教わった。



(4) 成果物の蓄積、活用

4年国語「ランドセルは海をこえて」では言語活動として、ノンフィクションを帯で全校に紹介し、帯付きの図書を図書館に展示した。



3 今後の課題

(1) 成果

- ・学期に一度、図書館資料を使った授業を設定したことで、図書館指導員と計画的に連携しねらいに沿った図書館資料の活用ができた。
- ・図書館資料を活用した言語活動の設定により、普段自分では手に取らないジャンルの図書に出会うきっかけになった。また、単元を通して主体的な学習にも繋がった。成果物を図書館に掲示し、他学年からの反響があったことで児童は達成感を味わっていた。

(2) 課題

- ・一人一台端末の活用が進んでいる。児童が目的に応じて端末なのか図書なのかを、選択して活用する力を育てていくことが課題である。
- ・更なる図書館指導員との連携が必要である。

第2分科会 中学校 学習情報指導 テーマ 「生徒の学びを支える学校図書館」

輪島市立東陽中学校 教諭 手崎 萌由

1 はじめに

輪島市では、昨年度からクロームブックが生徒一人につき一台配備され、各教科の授業や総合的な学習の時間、委員会活動など様々な場面で活用されている。情報収集が容易になった中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、生徒の自主的、自発的な学習活動の充実に向け、学校図書館はどのようにして生徒の学びを確かなものにすることができるのか、考えてみた。

2 実践の概要

(1) 国語科における取組

①新聞の活用

ア、新聞記事を使った200字作文

週1回朝読書の時間に、「天声人語」や「時鐘」などを読み、筆者の伝えたいことや、それに対する自分の考えを200字で書く。この活動は、読書の質の向上に繋がると考えている。また、時間内に記事を読み、自分の言葉で要約する必要があるため、情報を整理する力がつくと思われる。

イ、新聞スクラップブックづくり

自分の選んだ記事から、感じたことや考えたことを書いたものを校内に掲示し、いつでも読むことができるようにしている。自分とは異なる記事に目をつけた他者の思いや、他者がどのようなことを考えたのかを知ることができる。また、様々な記事が取り上げられることから、社会事象に関心をもつ機会にもなった。

②ビブリオバトル

本を深く味わい、テーマや表現の工夫を多面的に捉えて読んだり、言葉や表現方法を吟味したりするなどの力を付けることを目指して取組を進めた。

(2) 総合的な学習の時間での取組

私たちが暮らす地域には、能登の里山里海、輪島塗、祭りなど、様々な歴史や伝統が息づ

いている。しかし、地域に根差したものをインターネットで調べることは容易ではない。その際、学校図書館にある資料を活用することで、確かな情報を集めることができた。また、その過程で新たな課題が生まれたり、新しい発見をすることができたりするなど、学びが深まる様子も見られた。

(3) 生徒会・図書委員会を生かした取組

①おすすめの本紹介チャート

どんな本を借りたらよいか分からない生徒に向けて、質問に答えるだけでおすすめのジャンルを知ることができるチャートを提示した。

②本のポップ作成

先生方や委員会の生徒が1人1冊おすすめの本を紹介するポップを作成した。先生方のおすすめ本は多彩なジャンルに渡り、興味をもつ生徒が多かった。

(4) 学校図書館司書との連携

①環境整備

- ・読みたい本をすぐに手に取れる工夫
- ・季節やテーマに沿ったコーナーの設置

②授業づくりや朝読書への支援

- ・教科と関連した図書の選定
- ・生徒の関心や求めに応じた選書

3 今後の課題

一人一台端末が全生徒に支給されたことにより、図書館を利用する生徒の減少がみられるようになった。確かな情報を得る手段として、インターネットだけでなく、学校図書館の利活用の効果について、生徒にどのように指導していくかが課題である。

情報を集めるだけで満足することなく、集めた情報が正しいかどうかを見極めて考えることができる生徒、そして考えたことを表現できる生徒の育成を目指して、今後も研究を続けていきたい。

テーマ 「南金沢地区13校人気本ランキング展示—どんな本読んでる？」

金沢学院大学附属高等学校 司書 釜谷 鮎美
石川県立金沢伏見高等学校 司書 吉本 寿記

1 はじめに

南金沢地区司書部会では、「生徒に読書や図書館に親しんでもらう」をテーマとして、これまで研修・研鑽を重ねてきました。

この研修目標である、図書館利用と貸出の増加、生徒の関心を引く積極的な読書活動の推進、展示スペースの活用法、長期間利用できる展示の実施などを意識し、取り組んでいます。

この取り組みには、図書館で楽しい展示を行い、生徒が「その先の一冊を見つける」ことを助長する目的もあります。

生徒の目を引き付け、本を手にする行動につなげ、知識を増やせるような展示を検討しました。しかし1年間という短い期間で実践するという課題もありました。

そこで今回は南金沢地区の各学校において、令和3年4月から9月の貸出ランキングを抽出し、すべての学校の人気本ランキングを公開するという新しい展示が提案されました。

他校の生徒がどんな本を読んでいるのかを知り、本を手にとってページを開いてみることから読書意欲を高め、本や作家を幅広く知ってもらうというのが狙いです。

2 実践の概要

(1) ランキングの抽出方法と取り決め

- ・ランキングで同率が多く並んだ場合は、司書の判断によって10冊程度にまとめる
- ・生徒以外に教職員の貸出も含めて統計する
- ・掲示の際は学校名を匿名にすることで、偏見のないように配慮する
- ・A4で作成した基本の展示用のランキングは各学校の掲示様式に合わせて自由にカスタムする
- ・実践期間は令和4年の1月頃の一か月間程度に定めて、結果を報告することとし、その後の

展示の継続は各校に任せる

(2) 各校の実践結果

- ・A校・F校・I校・J校では廊下掲示。生徒が関心を持って見ており、他校のランキングに興味がある様子だった。
- ・B校・D校・G校・H校では所蔵本と展示し、図書だよりで告知。数名展示していた本を借りてきた。
- ・C校では図書館前の展示棚に展示。その後館内に移して展示。生徒や教職員が一部を借りた。
- ・E校では図書館閲覧室入口横に掲示し、サイネージ(電光掲示板)にてPR。興味を示して見ている生徒がいた。
- ・K校では室内外に展示。興味を持って見ていた。

このように他校のランキングに興味を示す生徒や先生が見られ、面白い展示だという感想が聞かれました。そこから貸出にもつながったようです。

3 今後の課題

- ・告知の仕方は利用促進に欠かせないので、工夫をしていくこと
- ・それぞれの学校の展示に合わせて、今よりランキング表を見易くすること
- ・内容案内に「読んだ人の考えるキャッチコピー集」を載せるなど紹介文を工夫すること
- ・今後も定期的に情報交換してランキングを更新し、貸出の増加につなげていくこと
- ・この展示を通して、学校同士の交流なども考えていくこと

以上のことをふまえ、生徒がもっと本に興味・関心を持ち、読書意欲につながる展示を実践するため、司書同士で情報交換し、より充実させていきたいと考えています。

第3分科会 高等学校 学習情報指導 テーマ 「探究授業ブックリスト」

石川県立大聖寺実業高等学校 司書 二木 和代
石川県立大聖寺高等学校 司書 橋本 尚子

1 はじめに

「探究授業で生徒の求める資料の提供が思うようにできなかった」という苦い経験は、私たち司書にはありがちなことである。

その度に「前もってテーマを聞いていたら準備もでき、きちんと対応できた」と悔しい思いをしたりもする。

そんな悩みの解決方法のひとつとして、探究授業ブックリストを作成することにした。

2 実践の概要

(1) 各校で対応した探究授業のテーマと、提供した図書のリストを記録として作成
テレワーク、加賀温泉郷、観光 など

(2) 下記①～③の共通テーマを設定し、分類 0～9 ごとに「キーワード」と、関連図書のリストを事前準備として作成

- ① コロナウィルス感染症
- ② SDG s
- ③ 石川県

各校で作成したリストをひとつにまとめた。

(3) 学校ごとに必要に応じたリストを作成

- ① 「SDG s」で、17の目標別のリスト
- ② 「石川県」で文学(平家物語、芭蕉と俳句、三文豪)に特化したリスト
- ③ 「コロナウィルス感染症」「SDG s」関連の新聞記事リスト

(4) ブックリストの活用方法

- ① 司書自身の虎の巻
 - ・常に更新していく必要がある
- ② 生徒へ提示
 - ・自分で本を探せるようにするため
- ③ 教職員へアピール
 - ・リストや図書室利用を促すため
- ④ 展示用
 - ・小論文対策や課題研究のため

(5) リスト作成の効果や利点

- ① 今後の選書のヒントになる
- ② 司書自身の分類の得意、不得意がわかる
- ③ 生徒がほしい情報を絞り込める
- ④ 不足している分類の図書が把握できる
 - ・蔵書構成の割合が低い分類6の図書がよく活用されている
- ⑤ 情報の古い図書が把握できる
 - ・SDG sの資料が古い
- ⑥ リストに入れたキーワードはネット検索でも有効である

3 今後の課題

探究授業のテーマは事前に確認できれば、それに越したことはないが、指示を「待っている」だけではいけない。いつでも、どんなテーマでも対応できるように、記録や準備をしておきたい。

ブックリストが手元にあることで、焦らず落ち着いて対応できる。またキーワードがあることで、生徒が求めている情報を探る手掛かりにもなる。「コロナウィルス感染症」ひとつにしても、「医療」だけではなく、「心理」「経済」「教育」「生活様式」「余暇」など、あらゆる分野の情報が必要となってくる。そういったことにもこのリストは対応できる。

また、最近の大学での幅広い教養を身に付けるリベラルアーツ教育や文理融合の考え方にも当てはまるように思う。

今後も日頃からアンテナを立て、生徒が必要とする情報を収集、提供していきたい。それと同時に、ネットにはない図書館や紙の図書の利点を発信すること、さらに利用者が紙とネット上の情報の両方をうまく活用できるよう援助していくことが必要なのではないだろうか。

第4分科会 小学校 読書指導

テーマ 「主体的に読書する子をめざして」

能美市立湯野小学校 教諭 北本 希美

1 はじめに

能美郡市図書館協議会は、能美市・川北町の11の小学校と4つの中学校の図書館活用推進員と図書館司書で構成されている。昨年度に引き続き、小学校部会では、「主体的に学ぶ子をめざして」というテーマのもと、研究・実践を進めている。図書館司書と連携しながら、各校で様々な取組を行い、読書指導の向上に努めている。

今回は、能美市の寺井地区の湯野小学校、栗生小学校、寺井小学校の3校の実践について紹介する。

2 実践の概要

(1) コロナ禍での読書指導

図書館の出入りの際の児童の手指消毒の徹底と本の返却の際の本の消毒などを日常的に行っている。また、密を避けるため図書館の休み時間の利用を、学年ごとに曜日を割り当てて行うなど、利用に制限を設けている。

(2) 読書への意欲づけ

①読書カード

月ごとの図書の貸し出し冊数と学年別のおすすめの本の読書記録をつけている。

②読書の達人

学年の目標貸し出し冊数と学年ごとのおすすめの本を10冊以上読んだ児童を「読書の達人」として表彰している。読書の達人になった児童にプレミアムカードを渡すなどして読書への意欲づけを行い、さらなる読書意欲につなげている。

③よんでみ10・多読賞

②の「読書の達人」と類似した取組で、おすすめの本を読んだ児童にプラス1カードを渡したり多読の学級や児童を表彰したりして、読書の幅を広げている。

④図書委員の取組

おすすめの本の紹介、ビンゴ、パズルなど、工夫を凝らした取組を行っている。

(3) 質を高めるための取組

①おすすめの本の設定

各学年の国語の教科書に載っている本をおすすめの本として設定し、その中から10冊読むなど、学年相応の本に触れることができるようにしている。

②教科での実践

年間計画に沿って、並行読書などの必要な本を教室や廊下に置いて、いつでも学習に使えるようにすることで、教科の実践に取り組んでいる。

(4) 地域・PTA との連携

①図書ボランティア

各学級に1回ずつ朝の時間に紙芝居、本の読み聞かせ、語りを行っている。

②家族読書

読書旬間や夏休み期間に、親子で読書の取組を行っている。「家の人が子どもに読み聞かせをする」など、親子読書の形態をいくつか提示し、抵抗なく取り組めるようにしている。

3 今後の課題

身近に関心のある本を整え、読書に関する楽しい取組を行うことで、実際に本を手にとるきっかけとなり、それぞれの児童の本との出会いの場が広がってきた。

しかし、コロナ禍のなかで、図書館へ行くことに制限を設けることで、自由に本を手にとる機会が減ってきている。

また、質を高める取組として、「おすすめの本」の設定など、学年に応じた本を読む機会を意図的につくっているが、進んで学年に応じた本を読む児童とそうでない児童の個人差がみられる。今後、いろんな分野の本を読ませていく機会や場を更に工夫して作っていく必要がある。

また、ICTの活用推進の流れのなかで、パソコンの利用の時間が増加したことで、読書をする時間が減ってきていることも課題である。

第5分科会 中学校 読書指導 テーマ 「質の高い読書を目指して」

1 はじめに

能美郡市では、「質の高い読書を目指して」を研究主題とし、市内3校の中学校で読書活動に取り組んでいる。本校は、昨年度から「GIGAスクール構想の実現に向けた教員のICT活用指導力強化事業」の県指定を受けており、ICTを活用した教育活動に力を入れている。一方で、今年度から1・2年生を対象に朝読書に取り組むなど、読書活動を通じて生徒のよりよい成長を目指している。読書という行為だけがもたらす、高次の思考の醸成や内面の変容を重視しているからである。

2 実践の概要

(1) 図書委員会による取り組み

①POP作り

一人一枚おすすめの本のPOPを作り、図書室前の掲示板に飾っている。紹介された本は図書室の「図書委員会のおすすめの本コーナー」で展示し、すぐに手に取れるようにした。POPや展示に興味を持つ生徒が多く、よく貸し出されている。

②ビブリオバトル

昨年度、初めて実施した。参加者は全校生徒から募集し、図書委員会は司会や宣伝など、運営にあたった。参加者たちは生き生きとお気に入りの本の魅力を紹介し、ディスカッションも盛り上がった。開催後は紹介された本を集めたコーナーを設置。どの本もよく貸し出されていた。

③朝読書におすすめの本の紹介

一人一台端末を活用した取組。今年度から開始。学年ごとにおすすめの本を選定し、端末で紹介した。朝読書の時間内で読み切れるような短編や、長編では一章分を読んで続きが気になるようなものを選定。端末から一話または一章分を読めるようにし、全校で一斉にその本を読んだ。いつもと違った本を読んでもみたい人が、新たな本に出会うきっかけになった。

能美市立辰口中学校 教諭 戸加里 美香子
(2) 司書との連携

①オリエンテーション

新年度の本の貸出を始める前に、本の貸出方法や図書室でのマナー、本の分類などについて説明をしている。1年生は説明のあと、実際に本を貸出した。

②ブックトーク

1年生を対象に、国語の授業内で読書感想文の課題図書を紹介。クイズや図を取り入れたり、馴染みの薄い言葉や時代背景には解説を入れたりして、生徒が興味を持って話を聞けるようにしている。

③課題研究

本校では全校生徒が各自でテーマを決め、課題研究（調べ学習）を行っている。その際、生徒の調べたいことをもとに、参考資料として利用する本を準備している。学校図書館だけではなく、市立図書館からも本を借り受け、各分野の本をそろえている。

④図書館ホームページ

一人一台端末の導入をきっかけに、ホームページを作成した。新着図書や司書のおすすめの本を紹介し、図書館の使い方や本の分類についても確認できるようにしている。図書日よりでは紹介できる本が限られていたが、スペースの制限がなくなり、すべての新着図書の紹介文と書影を生徒たちに届けられるようになった。また、コロナ対策のため、図書館は学年ごとに分かれて利用するようにしているが、利用日が確認できるカレンダーもHP上に掲載している。

3 今後の課題

生徒は、読書に対して抵抗なく取り組んでいる。しかし、意識や関心の高さについては生徒によってかなり差があり、個人差が大きい。幅広い生徒が興味を持って読書に取り組むことができる、そんな取組を工夫していきたい。

テーマ「南能登地区における読書指導の取り組み ～七尾高校の実践を中心に～」

石川県立七尾高等学校 教諭 枡田真里
石川県立鹿西高等学校 教諭 木全理恵

1 はじめに

南能登地区における読書指導、敷衍して論理的思考力およびコミュニケーション能力育成のための諸活動について、七尾高校の取り組みを中心に紹介する。七尾高校は2022年、全国で8校のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）第V期「先導的改革型」校のひとつに指定され、能登の基幹校として生徒の論理的思考力、創造性、獨創性、科学的探究力、表現力、国際的な場面で討議できる英語活用能力の養成・カリキュラムおよび指導法の開発を行っている。文理の枠を超えた探究活動「融合プロジェクト」を推し進めることで、学際的協働を主導するファシリテーターを育成するという責務を負っており、教務課図書係を中心として企画運営される読書指導も、これらの教育活動と有機的に連携した取り組みが目指される。学校図書館の蔵書数は約37,231冊、別にSSH推進室の蔵書として、各分野の専門書から論文執筆および発表の手引書まで、大学の研究発表のレベルに堪えうる書籍が多数揃っており、学校図書館の平均蔵書数25,813冊（2021年度・全国学校図書館協議会調べ）と比較しても、その充実ぶりがうかがえる。

2 実践の概要

（1）探究活動における図書の活用

七尾高校の探究活動はSSHの開発した手法を普通科にまで広げた全校体制が敷かれ、学年に応じた活動が設定される。特に1年次「知の探究基礎」においては、探究活動に必要な基礎的スキルを身に付けるための授業が展開されるが、テクニカルライティング、文献調査、ディベートといった活動の中で図書館が活発に利用され、図書資料の探し方、資料の引用の仕方、参考文献の記入の仕方、発表の手法など、探究活動の土台を学ぶ。

（2）朝読書（読書週間）

朝読書については南能登地区11校のうち、毎日行っている学校が複数ある。七尾高校でも年に2回読書週間を設け、朝の時間を活用して実施し

ている。担任、副担任も自分の読みたい本を持参の上で参加し、学校全体での読書に対する意識高揚を図っている。図書の選定にあたっては、学年に応じて新書を指定する等、普段手に取ることの少ない本に接する機会を設けている。新書については岩波書店、講談社の新刊など、年間約160冊の新書新刊が書架に加わるが、これは他校に例を見ない特徴といえる。読書週間の締めくくりとして一言感想やブックレビューを書くが、新書のレビューは南能登地区でも珍しい取り組みで、内容も大変読み応えがある。

（3）青春の読書

平成14年から20年間、『青春の読書』と題した小冊子を全校生徒に配付している。全職員が、自らが青春時代に親しんだ本や感銘を受けた本、現在関心を持っている事柄についての本を一冊選定し、紹介文とともに掲載している。身近な先生の読む本に生徒は高い関心を示し、「〇〇先生の紹介した本を貸してください」と図書館に訪れる生徒も多い。また、自身で購入した書籍を教室に置く担任もあり、あたかも個性豊かな「ミニ図書館」の様相である。

（4）企画展

1911年『善の研究』の各編を発表した哲学者である西田幾多郎は七尾ゆかりの人物である。文化祭や、命日である6月7日には「寸心忌」と書かれたポップが目を引く企画展が行われ、「人格の実現」を目指す若者の思索のひとつを保障している。最近では七尾高校の校舎を舞台にしたオジロマコト氏の漫画『君は放課後インソムニア』の特設コーナーが目を引く。不眠で悩む高校生ふたりが織りなす青春ストーリーで、七尾高校の校舎がそっくりそのまま描かれた漫画の誌面や色紙などが展示され、生徒の人気を博している。

（5）『図書館報』の発行

『図書館報』は1952年の創刊から令和4年3月号で160号を数える。読書感想文や読書感

自我の確立は他者とのコミュニケーションを除いて成立しない。漠然と存在する、自分という心の塊は、他人との、時に痛みを伴うやり取りを介し形作られていく。しかし今、若者たちからは本音を語らず、摩擦を減らして生きていきたいという思いが見て取れる。それでは強靱な自己は育たない。また、他人に合わせるという行動の動機が、人との摩擦を減らしたいということのみに留まれば、他者の考えがどのような道筋で成り立っているか、その文脈も関係ない。本を読むことは、他人の思考の文脈を辿る作業であり、齋藤孝氏曰く「思考停止せず、他者をどんどん受け入れていく柔軟かさ」を身につける営みだ。思考停止の動機は他者への恐れであり、読書はその恐れを軽減し得る。必要な時に傍に寄り添い、知の喜びを与える本は「理想の友」と言うこともできるだろう。本の中の登場人物は、実際の血は通っていないけれど、LINEのメッセージを1日100件打つ友達よりも様々なことを教えてくれる、落ち着いた友人である。図書室が、生徒の知を育み生を彩る場所となるよう、更なる実践を積んでいく所存である。

テーマ 「児童が読書を好きになる図書館づくり」

かほく市立外日角小学校 教諭 新谷 真美

1 はじめに

かほく市の小中学校には学校司書が常勤している。本校では、学校の真ん中に図書館が配置されている。本の配架、掲示や展示、季節の掲示などを工夫し、本に親しみやすく、児童が「思わず行きたい」と思えるような環境づくりをめざして学校運営を行っている。

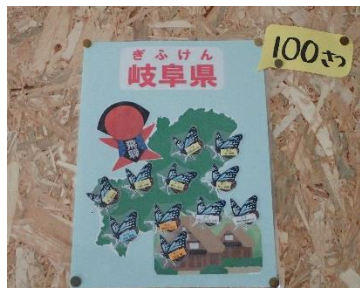
本校では、「まずは、本に親しむこと」に力を入れてきた。昨年度は、年間の読書目標を一人50冊と決めて、取り組んできた。昨年度は95%の児童が目標の50冊に達成することができた。今年度は、図書館に足を運ぶことの習慣化をねらいながらも、少しずつ「読書の質」にも力を入れていきたいと考え、以下の取組を行っている。

2 実践の概要

(1) 児童の読書意欲を引き出すための取組

① 読書の旅

本校では、1年間を通して「読書の旅」という取組をしている。最初は、何もない鉢植えからスタートし10冊読むごとにフジバカマの花が1つずつ増えていく。50冊読むと、アサギマダラという蝶が飛んでくる。100冊、150冊、200冊…と読み進めるごとに自分のアサギマダラが各地へ旅をしていくという仕組みになっている。自分の到達度が視覚化され、50冊達成するごとにしおりやもう一冊貸し出し券がもらえるので、児童の意欲につながっている。



② 全校の読書冊数の掲示

毎年、年度初めに全校で目指す貸出目標冊数を決めている。今年度は、全校の合計貸し出し

冊数目標を6万冊に設定している。今年度は、校長先生と教頭先生が植えた種が、千冊ごとに、花を咲かせていくというコンセプトの掲示になっている。5千冊達成することにおすすめの本を掲示している。

(2) 図書委員会のイベント

図書委員会では、学期に1回自分たちでアイディアを出し合いイベントを企画して取り組んでいる。「どんなイベントを企画すれば、図書館に足を運んでもらえるのか」ということを真剣に考え、子どもたちならではの目線から考えた面白いイベントが毎年実施されている。

(3) 様々な本と出会う場づくり

児童は、読み聞かせが大好きである。いつもは手に取らないジャンルの本でも、読み聞かせをすることで、「借りて読んでみようかな」と思う児童もいる。様々なジャンルの本との出会いを狙って以下のような取組を行っている。

- ・本校ボランティアサークル「スマイリーブック」による朝ステップの読み聞かせ(月1回)
- ・スマイリーブックによるお話会(月1回)
- ・やまんばさんによるお話会(月1回)
- ・学校司書による放送での読み聞かせ(週1回)
- ・うちどく(親子読書)の取組(月1回)
- ・学習場面での学校司書によるブックトーク(随時)
- ・調べ学習、国語の並行読書など学習で活用する本の準備(随時)

3 今後の課題

まずは図書館に足を運ぶことを習慣化してほしいという願いを込めて、以上のような取組を行っている。児童の「この本、読みたい」という願いを大切にしながら、読書の質が上がることを願って取組やイベントを今後も企画し行っていきたい。

第8分科会 中学校 図書館運営

テーマ 「自ら学ぶ力を育てる学校図書館 ～ 司書との協働を通して ～ 」

津幡町立津幡中学校 教諭 茶谷 明日香
かほく市立河北台中学校 教諭 畑山 裕紀

1 はじめに

河北郡市の6中学校には、図書館司書が配置されている。常駐4校、週2.5日配置が2校である。学習センター、情報センターとしての図書館の役割を考えると、司書との連携が果たす部分が大きい。そこで、司書の活用と教員や生徒をつなぐ活動を考え、効果的な人材活用の方法を模索した。

2 実践の概要

(1) 共通の取組

6校で情報交換を随時行い、有効と思われる活動を取り入れながら運営を行っている。図書館の利用状況の実態から、いかにして生徒と図書館をつなぐかが課題として見えている。そこで、次のような取組を継続して行っている。

- ・全学年を対象にした図書館オリエンテーションの実施（司書による説明、十進法別の図書探し）
- ・出張図書館（各学年ホールへの移動図書館）
- ・授業での利用、並行読書、資料の活用
- ・リクエスト受付
- ・朝学習時間での読み聞かせ（ボランティアサークル利用、司書）
- ・昼の放送による本紹介、貸出呼びかけ等
- ・展示図書の工夫、各教室前での常設展示
- ・調べ学習での資料準備、説明
- ・読書感想文の書き方、課題図書ブックトーク
- ・自校図書館以外からの資料取り寄せ

(2) ゲストティーチャーとしての取組

一人一台端末の利用により、生徒にとって情報を得ることがたやすくなった。利便性を実感すると共に、情報の正確性や根拠の適正さなど、図書との併用を意識する場も多くなった。そこで、図書資料の価値と、実物ならではの体感を生かす機会を設ける活動を設定した。

①社会科との連携

司書のもつ専門性を生かし、各時代の文化に

ついてゲストティーチャーとして授業に招聘した。「明治期の文化」では、ゆかりの深い作家の代表作や関わりについて紹介する形で参加し、授業後は文学全集や明治に関わる図書を社会科教室前に展示した。当時の図書資料を専門性の高い司書から提示されることで、興味をもつ生徒が増えた。「大正期の文化」「戦後日本の文化」など、授業内容に合わせて閲覧用図書を入れ替えたことで、新鮮さと即時性を生かすことができた。

②国語科との連携

古典の学習時、文学作品のほか、時代背景の資料や古典をもとにした文学等を紹介する場で司書を招聘した。文化の影響をさまざまな視点から見ることができ、展示した資料を手に取る生徒が多く見られた。

(3) 教科の連携と図書資料の充実

国語科の教科書に紹介されている図書資料を、学年ごとに分類して配架したことにより、授業で適宜紹介することが可能になった。また、授業で作成したポップを町立図書館、市立図書館に掲示し、発信した。前年度作成したポップは、自校図書館で展示している。委員会とのタイアップも有効であった。

3 今後の課題

生徒へのアプローチと共に、教職員への情報発信が図書館運営に欠かせない。図書館の活用の仕方、司書の人材活用方法の提案など、情報を提示することで活用の幅が広がる。司書と教職員をつなぎ、生徒の活動に還元することで、主体的な図書館運営がなされ则认为。学校の中で、一部で使うのではなく、全員で有意義に活用できる方法を発案し、提示していくことが今後の課題である。活用するには見通しを持ち、綿密な打ち合わせや振り返りも必要であるため、それらの場の設定にも関わり、より有効な図書館運営を探っていきたい。

テーマ 「図書館の外で発信する本の魅力～新規層に足を運んでもらうために～」

小松市立高等学校 石村 萌乃果

1 はじめに

本校図書館では、季節ごとのコーナー展示や、手作り POP の作成・掲示、スタンプラリーや読書週間などの活動を図書委員が主体となって活発に行っている。特に POP やコーナー展示には力が入っており、来館する生徒達に喜ばれている。

しかしそれでも年々少しずつ利用者・貸出冊数が減ってきている。問題は、入学当初のオリエンテーションで来館したきりほとんど足を踏み入れていない生徒達がいることだ。折角の図書館での展示や活動も、まず来館してもらえないことには貸出につながらない。

そこで、あまり図書館に来ない生徒たちの来館のきっかけを作るべく、試行錯誤しながらいくつかの取組を行った。

2 実践の概要

(1) 校内ビブリオバトル

本校では毎年開催していたが、図書委員を中心に図書館の中で行っていた。図書館の外からはあまり様子がわからず、参加しない生徒はその様子を見ることはなかったため、校内での認知度はあまり高くなかった。そこで会場を変更し、生徒玄関前に位置するロビーで行った。ロビーは人通りが多く、吹き抜けで声もよく響くため、より多くの生徒の注目を集める狙いがあった。スクリーンやマイクなども設置し、例年より会場設営の規模も大きくして開催した。



当日は、図書館ではあまり見かけない生徒達が様子を見て気になって集まってくる様子や、教員が足をとめて観戦している様子などが多くみられた。結果投票数はかなり増加し、例年ない盛り上がりとなった。後日ビブリオバトル

を見て来館した生徒や、紹介されていた本を借りたい生徒達が来館し、貸出数・来館者数増加につながった。

(2) 朝読書週間の移動図書館

本校では数年前から学期末に朝読書の期間を導入しているが、期間中さらに積極的に本を借りてもらうために、朝読書週間限定で移動図書館を実施した。教室前の廊下に係の生徒達が選んだおすすめ本を乗せたワゴンを設置し、その中から本を選ぶとその場で本を借りることができる。ただし、返却時には図書館を訪れる必要があるため、来館のきっかけにつながることを狙った。

試験的に2年生のみを対象として実施したが、初日から利用者が多くみられ、係の生徒達から内容の紹介を聞いて本を選ぶ様子や、実際に手に取りながらじっくりと選んでいる様子も見られ、生徒たちが本に触れる機会を増やすことができた。今後はさらに大きく宣伝をしながら、1・3年生の教室前でも実施予定である。



3 今後の課題

今回は、普段あまり図書館に来ない生徒たちを対象に、本や図書館に興味を持ってもらうため、様々な取組を行った。今後はさらに幅広い生徒たちが図書館に来る機会を増やすため、授業内での図書館利用を教員に促していきたいと考えている。また、全校生徒を対象に読書推進に関連した講演会も企画している。

より多くの生徒に図書館に足を運んでもらえるよう、これからも工夫を凝らしていきたい。

石川県学校図書館研究大会開催地

—平成6年度以降—

平成 6年度	県大会	【金沢大会】	押野小学校
平成 7年度	県大会	【鳳至大会】	宇出津小学校
平成 8年度	県大会	【加賀・江沼大会】	山代小学校
平成 9年度	県大会	【鹿島大会】	田鶴浜小学校
平成10年度	全国大会・県大会	【金沢大会】	押野小学校
平成11年度	北信越地区大会・県大会	【能美大会】	辰口中央小学校
平成12年度	県大会	【七尾大会】	小丸山小学校
平成13年度	県大会	【河北大会】	外日角小学校
平成14年度	県大会	【珠洲大会】	粟津小学校
平成15年度	県大会	【小松大会】	符津小学校
平成16年度	県大会	【輪島大会】	町野小学校
平成17年度	県大会	【白山・野々市大会】	石川小学校
平成18年度	中部地区学校図書館 フォーラム・県大会	蕪城小学校・清泉中学校・金沢西高等学校	
平成19年度	北信越地区大会・県大会	【金沢大会】	夕日寺小学校
平成20年度	県大会	【加賀大会】	東谷口小学校・山中中学校
平成21年度	県大会	【中能登町大会】	鹿西小学校
平成22年度	県大会	【河北大会】	向粟崎小学校
平成23年度	県大会	【鳳珠大会】	穴水小学校
平成24年度	県大会	【小松大会】	符津小学校
平成25年度	県大会	【羽咋大会】	下甘田小学校
平成26年度	県大会	【金沢大会】	米泉小学校
平成27年度	北信越地区大会・県大会	【白山・野々市大会】	松陽小学校・美川中学校 野々市明倫高等学校
平成28年度	県大会	【加賀大会】	河南小学校
平成29年度	県大会	【七尾大会】	天神山小学校
平成30年度	県大会	【河北大会】	津幡小学校
令和 元年度	県大会	【珠洲大会】	宝立小学校
令和 2年度	県大会	【中能登町大会】	感染症拡大防止のため中止
令和 3年度	県大会	【金沢大会】	オンデマンド開催
令和 4年度	県大会	【野々市・白山大会】	ハイブリッド・富陽小学校

あ と が き

野々市・白山大会実行委員長
中野 淳子

令和3年1月27日文科科学省より、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」の周知がなされました。また、社会の変化が加速度を増し複雑で予測困難な時代における必要な資質能力の一つとして「情報活用能力」があげられ、学習指導要領の総則においても「情報活用能力」は「学習の基盤となる資質・能力」とであると位置づけられました。今まさに、学校図書館は「情報活用能力」を育成し、個別最適な学びと協働的な学びを実現するうえで、欠かせない存在となりました。

このような背景を踏まえ、大会主題を『AI時代における情報活用能力を育成する学校図書館』とし、ICTを効果的に活用し得られた情報を根拠に自らの考えを表現できる力を育成することを目的として取り組んでまいりました。くしくも本年度から「利用指導」は「学習情報指導」となり、より一層、学校図書館が、「情報活用能力」を育成することを期待されての本大会となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からも、本大会は一部集合型のハイブリッド形式で開催をいたしました。ご不便をおかけした点多々あることとは存じますが、新しい研究会の形として、参加された皆様にとって少しでも役に立つものであることを念じております。

最後に本研究大会を開催するにあたり、ご指導・ご支援を賜りました石川県教育委員会、金沢教育事務所、野々市市教育委員会、白山市教育委員会をはじめ、ご尽力いただきましたすべての皆様方に心より感謝申し上げます。